5 号

発行

が定

京

第

出

従来のY 会副会長を団長に、 会では、 大型ジ 旅行を実施、 川空港の Š エ れを記念し ツ 11 拡張 地 機 か 元旭川 離着陸できな 0) 事 乗 7 h が 昭 から盛んな歓迎を受けた。 和五 かず か 寸 現 体 H た同 年 7 初 吉 空港に待望 0 月に完成 郷 東京 田 一敏明 土 里 旭

[席者が 集 刻 都 より П 重 東京 兀 姿 洲 を 時 旭 \Box 見 切 間 0 JII 0 Ł ホ 会 準 早 テ 0 備 総 ル を 玉 会 を上 と懇親 進 後 際 8 観 るう 光で П 時 る 頃 会 か 盛 は 百 大に B 晚 秋 同 九 世 開 話 五 0 時 役 催 + が 過 0 25 会場を埋 月 ぎ n た。 十六 か 細

昭和58(1983)年1月25日 東京旭川会 東京都新宿区西新宿7-4-3 升本ビル 東京美装興業株式会社内 TEL. (03)363-2721 東京旭川会会報編集委員会



は六頁

5

次

セ 余 日

下 歓迎にこたえて一行を代表して挨拶する吉田敏明団 空港ビル正面で市主催の歓迎式を受ける一行、 の言葉を述べる中島弘助役





中央立つのは坂東徹市長夫妻。

ら会員

から希望が出ていたのですが、

問旅行については、前々か

総勢100人大歓迎の

受けたあと、バス二台に分乗して市

空港では市助役らの歓迎の花束を

ン球場、 変貌や、街の発展を見たほか、市立 医大など、ナラやクヌギの雑木林に 内周遊に入り、ニュータウンや旭 葉し赤い実のついたナナカマドの並 旭商などなつかしい学舎、スタルヒ 高女・庁立高女跡、東高、 すぎなかった上川神社裏の神楽岡の の案内で回った。 木や雪虫の飛び交う町々を、 陸上競技場、博物館など紅 教育大、 市職

で市の歓迎昼食会に出席し、坂東徹 ついで一行は高砂台レストハウス 小檜山享旭川商工会議所会頭

> 受けた。 東京旭川会からは女神がささえる

美しい置時計が記念に市に贈られ からは全員に記念の湯呑みがプレ 食会ではジンギスカンなべ、と

ら眺め、やがて日高の山なみが右窓

盆地の広大な沃野がひらけ、

九時三

た旭川空港に着陸した。羽田を発っ

-五分雲ひとつない晴天の新装なっ

て実に一時間二十分の早さである。

に見えて来たと思う間もなく、

路故郷へ。途中山形を過ぎる頃から

降る薄ら寒い羽田を飛び立ち

午前八時十五分、

小柳勝人旭

川市議会議長らの歓待を

視界も良く、

十和田湖の紅葉を空か

うもろこし、馬鈴薯、 っ盛りで黄に赤に色どられ、 また周辺の山々はちょうど紅葉の真 覚に舌鼓をうった。 番茶割り焼ちゅうなど地酒や秋の味 高砂台からは市の全貌が一 、ふらのワイン 遙かに 望でき

> て散会した。 かにうけたふるさとの歓待を満喫し 冠雪した大雪山の偉容もくっきりと

> > 充実したひとときであっ

正午、高砂台のレストハウスに

IE. 人

時間の会食であった。

地元の方々のご厚情を謝し、

半を終わり、十四日午後二時半空港 で旭川駅前に至る。予定の行事の

前

サービスに努められる。

賑やかな一

人も……。市長ご夫妻も席をまわり お目見えし、ついには軽口をたたく

然と羽田を離陸する。定員百二十八 ジュールに花が咲く婦人達、 でお世話をした田村昌士さん達のホ 今春から計画の中心となり、 人のDC9の大半を占領しての飛行 川訪問団はひとりの欠席もなく整 とした顔が印象的である。グルー 毎に自由行動に移ってからのスケ 十月十一日午前七時、九十八人の 今日ま

いずれも心はひとつ。

窓会のまとめに汗だくの人、 団長他の人々、ふる里の上空で窓に の公式行事の最終打合せをする吉田 顔をよせ瞳をこらし感慨深げな老人、 旭川で

異なり、 定刻、 気を予想して厚着をした者には汗ば 束が贈られる。市内観光に移りバス 歓迎の辞に続き、代表にそれぞれ花 ともなく語る男性。一 こと呟く婦人。旭橋と大雪山は昔通 りでは近代化に驚き、昔の面影いず 等の現況に絶句する卒業生。平和 中央両小学校、北都高女、庁立高女 は進む。今は全く姿を消した大成、 かしい街並に往時を思い出しつつ車 受ける。学校とか施設その他、なつ 一台に分乗、市職員の沿道の説明を)程である。出迎えの旭川市助役の 千歳空港付近から早々下降を続け 旭川空港に着陸。 征のときを思い出すと誰 快晴でさわやかな天候に寒 雨の羽田と

を抱えて故郷にさよならした。 業出身者は十二日に開かれた旭商六 かった思い出とたくさんのお土産品 ぎて、十四日午後三時十五分、楽し ス会や同期会がもたれ、 短かった四日間はまたたく間に過 周年式典に出席した。 三泊四日の滞在中、 められ、秋晴れの自然の恵みを豊 それぞれクラ また旭川商

盛だくさんな料理に競って箸が動く

久しぶりの郷土料理だ、うまいネ

等

ジンギスカン鍋を中心に南瓜、馬鈴 長らとともに和やかな昼食会に入る。 檜山商工会議所会頭、大西観光協会 着。坂東市長、小柳市議会議長、

ビール、

ワイン等々

はお茶割り焼酎、牛乳割り焼酎まで 々口数も多く秋の味覚を満喫、はて 東京では味わえない素敵な味ネ、

空のジェット就航を記念し、オフシ はないか、企画の成功に尽きると考 して初めての人を含めての里帰り気 感を呼んだうえ、卒業以来とか結婚 とも自由行動としたことが望外の での再会を約し解散した。 えている。 分、気楽さによるところが多いので きるよう ふる里での自由な時間を十分利用で ・ズンとはいえ紅葉の候をねらい、 思えば、今回の訪問は東亜国内航 初日午後二時からは、三泊

好

かわらず遅刻なし、落伍なしの見事 ある。それは中高年令者集団にも 加の皆様に厚くお礼申し上げます。 のは筆者のみではないと思う。 を受けた影響今に残るかと感心した さである。さすが往年の軍都で教育 最後にとくに申し添えたいことが

浦島で童心にかえる 田 村

昌

士

したら 月

いいのか思案していたところ、いざ具体的にどのように企画し

造りの茶碗のお土産までいただき、 た。さらに帰京に際しては、市長手

に入りました。 頃から大型ジェットが就航されると 十月頃を目標に草案を作成して交渉 京旭川会の落合常任委員とともに、 た。旭川市の松浦東京事務所長、東 いうことで、きっかけがつかめまし

様子、ほっとしました。 ころの想い出など浮かべ、満足のご 今浦島のように童心にかえり、 役をかっていただき、参加者一同、 による旧制の中学、女学校の見学な 旭川空港到着時のセレモニー、バス 市をあげて歓待していただきました。 せて旭川市の絶大なるご賛同を得て することができました。これにあわ をよく理解され、破格の金額で企画 東亜国内航空では、当方の申し出 市の職員が公務多忙の中を説明 幼き

え、九十八人と特別参加者二人、計 もは心配もいたしましたが、旅行日 百人の申し込みとなり、ほっとした 程が近づく頃から急激に希望者が増 はご賛同が得られず、立案した私ど ありがとうございました。 して募集を開始しましたが、はじめ 計画した当初は、八十人を目途と

羽田空港での集合はもち論、 帰り

とから、進藤整形外科の理事長先生

頃のご人業で、同級生にはどなたが席の!。別ら私も朝日小ですが、いつ

などと話がはずんだ。妻はどこかで

草原の掘っ立て式の寺小屋で学童十

明治二十四年、曙町一条七丁目

二、三人、教師・久教渕(ひさしき

お会いしたような気がすると言うこ

した時のお礼を改めて述べたりしま とわかり、十数年前、九ヵ月も入院

五、六年)四条十六丁目

付近の街路

矢島平次郎ら就学。

次郎、七月一日から翌年三月まで。

私の幼時(小学一、二年生。大正

共成学。

学童二十人、校主・瀬古今

郎ら就学とあります。さらに、同二 ょうえん)、三ヵ月で閉鎖。坂東幸太

十五年、ほ通四丁目(一条五丁目)

をなぞるようにお互いに語り合い、 で行動をとっていただき、皆さまの りませんでした。ご協力ありがとう もにとって、これ以上の嬉しさはあ たいとのことでした。担当した私ど またこのような企画をしていただき マナーの高さに感心しました。帰り の旭川空港においても全員時間 飛行機の中の話題は四日間の行動

高砂台のレストハウスで市主催の歓迎バ

武

ございました。

のほか、私がもっている旭川兵村教 事や、大空会(旧職員の集い、会員 たのには、色々な目的をもっていた 巻」を併載して出版にまでこぎつけ 諭楠 正巳氏の「明治二十五年日誌」 旧談に花を咲かせようという楽しみ 百人)同窓会懇親会にも出席して懐 からでした。旭商六十周年関係の行 たい、との下心があったからでした と坂東良一氏所蔵の「屯田兵生活絵 このたびの郷土訪問の旅に加わっ 羽田では意識的にドサンコ弁を使

らいで、ジャガイモ、カボチャ、牛

番茶割りなど、郷土の味覚に満

楽しいひとときを過ごしまし

台のレストハウスで坂東市長のお計

また、バスの見学のあとは、高砂

って、はしゃいでいるご婦人のグル でした。ここでトウキビ、 との訛が聞こえてくるような雰囲気 ェット機が下降し始めました。 ことばかりを考えているうちに、ジ 食べようなどと、食い意地の張った ゴショイモ、ジンギスカンをたら腹 ープがおられたし、機内でもふるさ カボチャ、

朝日小学校と東高(旭中)、次に中央 だと妻に話しかけていたところ、 小学校……。まるで学校巡りのよう 遊覧バスで旭川医大、次は母校の 隣

> とあります 楠正巳氏の日誌を手に、舞う雪虫

うもの=棒幣) ne (になる) ni (木) ni「キキンニ」(kiki(魔神を追っ払

ヌ語辞典・植物篇」をみると、kikin せんでした。知里さんの「分類アイ か知っていますか。実は私も知りま

ナナカマドはアイヌ語で何と言う

は圧倒されてしまいました。 ナカマドの並木の素晴らしい景観に みもさることながら、七条緑道のナ お世辞にも言えないような樹でした。 散ってしまい、美しかったなどとは だったためか、せいぜい黄葉程度で 樹は山もみじで、植えて間もない頃

教師・和田清亮月俸七円、 田熊蔵が訓導として着任、

す。(「旭川市史」から)

別尋常小学校。永山東小学校から池

、月俸十日 とありま

明治二十六年九月十七日、公立忠

それが大きく変貌、発展した街並

と引き退った次第でした。 ひとあし遅かりし由良の助」と最初 が掲載されるとのことで、「残念無念」 訪旭川文庫2」に旭川屯田物語画綴 り出したところ、近日中に「歴史探 刺を通じ、屯田絵巻と日誌の件を切 に、冬の間近いことを感じながら、 の意気込みはどこへやら、すごすご でした。館長の芦原旭川神社宮司に 旭川兵村記念館を訪れたのは十三日

そのような公立小学校があったので 村の創草期に永山兵村(明治二十四 の私塾があったにすぎません。旭川 月誕生の公立忠別尋常小学校が最初 で、二十四、二十五年頃は寺小屋式 旭川の小学校は、明治二十六年九 (明治二十五年)には、

* 旭川市東京事務所長

松 浦

すばらしい青空と澄んだ空気、何を立証したものである。と同時に、 ことへの喜びを感じさせてくれた。 参加が百人に及んだことは、いか してみてはいかがなものでしょうか 育ててくれた故郷へ、子や孫の「ル ツを訪ねて千二百粁旅行」を企画 今後は私達が生まれ育った、いや、 かもがおいしい食物は、生きる *ジェット就航郷土訪問の旅 * 川を"激愛"しているか

豊島

*

今回ほど楽しく、意義深く、そして ない思い出になることと思います。 天候に恵まれたことは本当に忘れ得 き。再度の故郷めぐりでありますが、 季節的にも恵まれた秋の風情に、 秋深きふる里訪ね、 友のなつかし

様ともども元気な笑顔で帰京できま したことに深く感謝いたします。 こころよく楽しませていただき、 皆

* 旭商二十五回 本間 敏弘

帰ったという感じであった。 特の空気にふれ、やっとわが郷里に 秋の味覚がただようようなふる里独 良かった』と実感した。 温かさ溢れる坂東市長の笑顔にふれ たとき、ああ、やっぱり帰って来て 旭川市の関係者の出迎えを受け、 真新しい旭川空港に着いたとたん

年ぶりで訪れた私には、あまりにも 東京旭川会との交渉が、深いきずな 今後の旭川市の発展を祈りながら、 味豊かな町には変わりがなかった。 変貌したふる里ではあったが、人情 となることを、ただただ望むもので 母校六十周年記念のため、三十二

見せるもの」としたいものである。 ではなく「ふるさとは近くにありて 「ふるさとは遠きにありて想うもの」

* 旭商二十六回 夫

卒業時は旭川商業高校という、今で 在校七年間という長い記録の主でも は考えられない状況であった。旭商 あり、青春時代を旭商で過ごしたも したのは旭川第二工業学校土木科、 三十年ぶりの里帰りである。入学

らなかった。現在の新校舎を見るに たのが、全焼となるとは、思いもよ の一部が焼けていたのに過ぎなかっ びに行っており、はじめ校舎の片隅 校舎の焼けたときは、寄宿舎に遊 コンピューターも入り、近代

り、あの味だけは忘れられない。店 のふる里のみである。しかしラーメ 楽しいかぎりである。三・六の飲食 の呼び掛けはいつまでも耳について 員さんの油こくですか、普通ですか 生徒の少いのには、少々残念である 化そのものとなりつつあるが、男子 ンだけは、蜂屋、青葉、特一番とあ きであり、青春時代に過ごした懐か の数々の建物もなく、 旭川市内の町並みの変貌ぶりは驚 またの再訪を楽しみに 残るのは心



*桜花会東京支部長 牧 田 逸子

通りの説明を聞きながら、旭川市街 バスに分乗して、懐かしい学校跡や て故郷の甘い気分にひたってしまっ 酒あり、ご馳走ありで、陶然となっ やがて昼食会場の高砂台に着く。美 り、三十万都市の景観を見聞しつつ、 をそれぞれの憶いを乗せてバスは走 が華やかに行なわれたあと、二台の 新旭川空港での歓迎のセレモニー

っている。 ったと、しみじみ思う。あたりは、 黄、赤の美しい紅葉に彩られ錦を織 三泊四日の短い旅でも来て見て良か やはり故郷は温かく心を包みこみ

肌にすがすがしい。道立美術言 高砂台からの景観は真に美し 今年は暖かいせいか、秋気が快く 旭

思いを新たにしたのだった。 川は本当に文化的都市なのだとい

郷

* 桜花会 (三十回生) 足立

られない思い出の旅でした。 も再度の約束が果せた意義ある忘れ 三十数年ぶりの喜びでした。こんど どもはふる里北海道を訪れました。 ます。五十一年夏、定年退職後、私 ありがとうございました。 に私の短い感傷旅行は終わりました。 やさしく、温かく、厚い感謝ととも できましたことを心からお礼申上げ 東京旭川会郷土訪問ツアーに参加 ふる里の自然は美しく、住む人は

* 板谷 峯

用事をすますと仕事に追われ早々に りの大張り切りでした。 ばし、二日間は全く学生時代に逆 旭川のみならず、札幌にまで足を伸 帰京する繰り返しでしたが、今回は 時々帰旭することはありましても

会を約しこの楽しみを胸に、次に訪 せられました。本当に有意義な旅行 まさらながら郷土の美しさを教えさ 案内していただいて、今まで本州の 方々に感謝申し上げます。 機上の人になりました。お骨折りの れるまでまた一生懸命頑張りたいと でした。旧友との別れはつらく、再 紅葉しか考えなかった私たちに、い 三日目、紅葉の美しい望岳台まで

* 鎌 田 政 子

は秋晴れに輝いて美しく、 十年ひと昔 ふた昔ぶりのふる里 あたたか

活躍をされておられることは、誠に 心強く非常に喜ばしいことでありま 郷土の多くの先輩が、 官界の分野において素晴らしい 日本の政

員を代表して「ふる里旭川」を訪問 を記念して東京旭川会六〇〇余の会 された皆様に深く敬意を表します。 このたび旭川空港ジェット機就航 短い里帰りではありましたが、 秋

ばしぼう然と思い出の糸をたぐりた りに訪れた、もと住んでいた通りは 違える程に生まれ変わり、四十年ぶ の昔を思い出しました。 こすのはむずかしく、川の流れにそ うすれゆく昔のたたずまいを思い起 ぐり、娘時代の私をそこに見ました。 面影もなく、高いビルに変わり、し く私達を迎えてくれました。街は 郷土の発展はうれしい限りですが、

きついたような安らぎをおぼえまし る里はここにありと、長い旅から行 暮らしていたことか。そして私のふ 当にハッとしました。なんと美しい 番「おばんです」といわれて、本 そして夕べの旧友達との宴で開口 私は長い間この言葉を忘れて

川会の皆様ありがとうございます。 いつかまた、生気をあたえてくれ この機会を与えてくださった東京旭 土訪問をお願いいたします。 あたたかく包んで下さったふる里

土訪問 に寄 せて 旭川市長

久しぶりに見る ふる里

坂

東

微

の街並みに昔日の思いをはせ、懐か 善を尽くしてまいる所存でおります たのではないでしょうか。 しく、ひとしお感慨深いものがあっ を訪問されることを期待しておりま 機会に、さらに多くの方々が、郷土 りますようお願い申し上げ、これを ので、今後尚一層のお力添えを賜わ らに魅力ある街として誇れるよう最 の良さを失わず、発展充実させ、さ れた伝統あるこの「ふる里」を、そ れの下、 先人が風雪に耐え営々として築か

Ш 晃

見ることができました。 ることもでき、ふる里の変容ぶりも いがけなく、亡母の法事にも出席す 今回の催し、 大変結構でした。 思

活気がないことでした。市長が悪 政』ではないでしょうか。 きりにしないで、時々催すのも『善 ることができるのは大歓迎。これっ 市長さんがんばらなくちゃあ。 ンコーさんの突然の退陣にびっくり。 酒を飲んでオダをあげていると、ゼ のか、いやゼンコーのせいだべ、と 残念なのは、旭川の町、 それはともかく、安く郷土を訪 いささか

* \mathbb{H} 中 玉 夫

ぼ一年ぶりの旭川への里帰りでした。 去ってから横浜、府中と転居し、 昭和五十六年九月三十日に旭川 ほ

雑誌の対談で若い作家にむかって、 えて、なお現役である。何年か前、

作家野上弥生子さんは九十歳を超

感じられるようになった。それとと

が短くなるように、毎日毎日が短く

していても退屈しないからである」。 しないのではなく、怠けてぼんやり なくなった。それは忙しいから退屈 もに退屈するなどという事も絶えて

「時間の長短について考えるとき退 これは、普通誰でも感じるように、

を六十年とすれば、その半ばは二十

から、ある心理学者は、仮りに人生

うに違うのは時間だけである。そこ

六十歳や七十歳で、年寄りじみたこ

ころから、時間の速度がはやくなり

どく長かった。それが成年を過ぎた

節である。「子供のころは一日がひ こからの友人で作家の随筆集の中の

三十歳以後は秋分のあと少しづつ日

ところ急テンポの発展に驚いている ルなどビルの建設が目立ち、正直の 年間とはいえ、郵便局、 他の新しい施設やターミナルホテ 学校、そ

親戚、友人宅を訪問し、ほぼ予定を い日程でした。秋晴れの晴天に恵ま 消化できましたし、ちょうどほど良 折を見てこのような企画をお願いし 深謝申し上げますとともに、また、 本当に好運だったと思います。 れ、かつ素晴らしい紅葉に迎えられ たいものと期待しています。 三泊四日の間に、墓参りをはじめ 本当に楽しい郷土訪問旅行でした。 お世話くださった幹事さん各位に

歓迎者側より



旭川市議会議長 勝 人

北北海道の社会、経済、行政、文化 を擁する北海道第二の都市として、 の小さな開拓の村が、今日三十六万 を記して以来九十二年、百九十七人 問されましたことは旭川市民の一人 ト機就航を記念し、郷土旭川市を訪 として喜びにたえません。 上川盆地の中央に、開拓の第一歩 東京旭川会が、旭川空港のジェッ

> などあらゆる分野における中核都市 として大きな発展を遂げてまいりま

申し上げる次第でございます。 三代目の皆様に対し、改めて感謝を 々努力を続けてこられました二代目 志をついで、明治、大正、昭和と営 栄の蔭に開拓の任に当られた先人の しかしながら、こうした現在の繁

並み見学、台場ヶ原から望む旭川市 若き日にい出を浮かべながらの街 様は感激と安らぎを覚えたことでし め幾多の山河の自然に触れられ、皆 ぬ大雪山連峰と石狩川の清流をはじ の変貌、そして、昔と少しも変わら お久。紫りの空からの郷土訪問、

観光協会会長社団法人旭川

大西

功

と思います。 溢れたまちづくりを進めていきたい に充実し、自然と調和した、希望に 私たちは、この歴史と伝統をさら

会の益々のご発展をお祈り申し上げ 層のご協力を賜わりますとともに 東京旭川会の皆様には、今後とも

く、重いものはやはり重い。このよ 美しかったものは記憶の中でも美し 逆の関係は起きない。現実の経験で 実の経験と記憶の中に、このような しかし時間以外のものの場合、 現

会長 平 畄 敏 男

頭に入っていないのであろう。

とを忘れるのではなく、はじめから に記銘力が低下している。憶えたこ

思った個処にぶつかると、赤線をひ

そこで、本など読んでなるほどと

いたり、日記や手帳や時には随筆な

笑われるかもしれないが、老来とみ たばかりで老人ぶると野上女史には そのことだけである。七十三になっ なかったが、頭に残っているのは、 と思う。その対談は、短いものでは 若い作家は谷川俊太郎さんであった なめていたのが記憶に残っている。 とをいうのはおかしいわよと、たし

を決定する。多事であり、 逆に、意識内容の多寡が時間の長短 ころが「記憶においては、これとは く感じられるのは周知の通りだ」。と く、苦痛の時は長く、快楽の時の短 屈な時間は長く、興味ある時間は短 たある時間は長く、単調で無意味 色彩に充

の中からふたつ。ひとつは、学生時 どに書きうつすことにしている。そ

逆境に対処できるかにかかっている 年だといったそうだ こういう機敏さは、多くのさまざま の価値は、いかに早く、かつ楽々と な反射作用と本能的な反応を積み重 訳)の一節である。こうだ。「人間 もう一つはアレキシス・カレル |人間-この未知なるもの」(渡部昇

ければ若いほど、反射作用を習慣づ れる」。 実さ、勇気も、反射作用を形成する けないことを自分で学ぶ。正直、誠 かにやさしい……。犬は盗んではい 較べてさえ、比較にならぬほどはる 利口なシェパード犬を訓練するのに 積できるのだ。子供の訓練は、一番 識の知識というべき貴重な財産を蓄 けることは容易である。子供は無意 ねた結果、得られるものである。若 議論や討論や説明抜きで発達させら 時に用いるのと同じ方法で、つまり

書いてくれているのだ。 するようなことは、たいてい先人が 前である。つくづく思う。傾聴に値 なった。ところが、私がこの本を知 に刊行されて国際的ベストセラーに そして、この本は、五十年ちかい昔 ル生理学・医学賞を贈られている。 究所の正会員として活動し、ノーベ り、読んで感心したのは、二、三年 カレルは、ロックフェラー医学研 (毎日新聞社会長・題字筆者)

東京の有力者は偉

る。何はあれ、若かりし頃を思い浮 ものであり、かつ革命的大事業であ 団長の策定は、まさにその当を得た を久しくご覧願ったことは愉快。 伸びゆく郷土旭川の、生々発展ぶり 旭川空港の宿願達成ジェット化に伴 の遂行である。げに平岡会長、吉田 アー―旅行会、まさに勇断的大事業 久しく見聞しているが、この度のツ 東京旭川会の、創立当初より私は 空からの郷土訪問を断行せられ 京在住の有力者の方々はお偉い

はじめ私どもが臨席。しかもなお、 の夕べに錦上華を添えた。 ミス旭川、準ミス旭川を帯同、 東京旭川会の総会には坂東市長を

とし生ける人の世の華麗なる思い出 を展望、実に郷愁そのもので、生き かべ、そしてまた、旭川市内の発展

である。

徴たる手の噴水の色どりは、人口五 に披露した、その式典の記念品、バ 可を得、政令都市の札幌と比肩し、 十万人に躍進せんとする近代化旭川 雪山、石狩川の旭橋、買物公園の象 その風格、権威、事業を堂々と内外 にして雄渾なる姿である。それを親 の展開であり、観光都市旭川の清楚 る。万雷の拍手を浴びたのは、 プレゼント、まさしく一幅の絵であ 会会長・平岡毎日新聞取締役会長に しく壇上において、私より東京旭川 ナー(小旗)即ち錦繡綾なした大 旭川観光協会が社団法人として認

日を重ね、月を経、 的に永遠の生命を描くであろう。 かくして、旭川市と東京旭川会は 年を踏んで歴史

過した時は短い

回総会開





(左下)ことしも賑わった北海道名産即売会 (右下)ミス旭川、福本靖子さんから花束を受ける 平岡敏男

午後六時 十一月七日の市長選挙 明

と予算(別掲参照)が八木祐四郎常 挨拶後、平岡会長が議長となって議 で承認し総会はとどこおりなく終了 監事の監査報告が行なわれ満場一致 任幹事から読み上げられ、竹原茂雄 収支決算報告、五十七年度事業計画 事に入った。五十六年度事業報告、 した。総会は原公朗常任幹事の司会 で再選を果たしたばかりの坂東徹市 一が、満場の拍手に迎えられて入場 御手洗正夫副会長の開会の

モニーで披露された。 た。曲目は「ふるさとは遠い北国」 の混声合唱のアトラクションに移っ 「マイウェイ」の二曲が見事なハー 続いて朝日生命コーラスグルー

今までの市長の任期は今日までで、 ら「一年振りで喜んで参加しました 会の挨拶があり、ついで坂東市長か 再選おめでとうございます。東京旭 を受け、お礼を申し上げます」と開 来賓で来場の市の方々にも大変歓迎 い。十月に約百名の郷土旅行で本日 会ですが馴染みの坂東さんで喜ばし 川会は一党一派に偏することのない 懇親会は平岡会長の「坂東市長の

ます」と挨拶があった。 治抜きがこの会の良いところで日本 種々ご尽力をいただきお礼申し上げ の中心の各分野で素晴らしい働きを して嬉しく思います。郷土のことに 日から新しい市長になります。

乾杯の音頭をとり和やかなパーティ ついで太田剛北海道倶楽部代表

ス旭川・鎌田秀子さんから平岡会長、 川田正則の各代議士、村上茂利前代 贈呈が行なわ 吉田副会長に花束が贈呈され、牧田 したミス旭川・福本靖子さん、準ミ ぞれ挨拶ののち本年も旭川より上京 同副会長、上草義輝代議士からそれ 工会議所会頭、藤井諄一同副会頭、 と力強い挨拶があり、また来賓とし 党派を超え一致して力を合わせたい 井代議士から「郷土旭川の発展には 議士が壇上に紹介され、代表して安 逸子常任幹事から坂東市長への花束 大西功旭川観光協会会長、金森耕造 て小柳勝人市議会議長、小檜山享商 郷土選出の安井吉典、 割れるような拍手 五十嵐広三

路出身)の津軽じょんがらず またキングレコードの五郎 ル明が 釗

同窓会だより 商

旭商同窓会会長

を兼ねての東京支部同窓会多数のご けて特段のご高配をいただいた道教 ら感謝を申し上げたい。 参加は錦上花を添えていただき心か また同窓会関係として旭川―東京間 国会議員、道議、 加の中にはこのたびの校舎改築に向 日を迎え心から祝福を送った。ご参 ジェット機就航を記念して郷土訪問 育委員会をはじめ、同窓生や地元の われわれ同窓会もこの記念すべき 市議の諸先生方、

期岡嶋保二郎先輩を会長に陳情、請 に、このたびの素晴らしい白亜の殿 めて来た永い間の念願であっただけ 願、署名運動などキャンペーンを進 舎改築期成会が発足し、今は亡き一 ガンだった。思えば昭和四十五年校 同窓会が校舎改築に向けてのスロー 入のものがある。 れらが校舎」――これがわれわれ 近代的な新校舎の落成は感激も

母校が創立してから三十周年、 周年という記念すべき年を迎えた。 校舎落成とあわせて本校は創立六 ある

+ 周 年 式 典.

野

清

利

臨席のもと盛大に開催された。 会が来賓各位をはじめ各関係多数の 後一時からニュー北海ホテルで祝賀 - 校舎落成記念式典が行なわれ、午 校において、創立六十周年ならび 昭和五十七年十月十二日午前十時

願いをこめて同窓の和で築こう

れた。六十周年記念にふさわしいす 五十号の日展入選作の絵画が贈呈さ 東京支部十期三浦白琇画伯 ばらしいプレゼントとして学校で永 ニュー北海ホテル祝賀会会場では

び祝いながら、旭商友情のきずなを 中で、この記念すべき日をともに慶 力強い歩みを続けていくことを誓う。 催された。一千百人に上る参加者の 会、午後六時から祝賀懇親総会が開 層深め、明日への飛躍に向かって 同日午後五時から同窓会代議員

旭 商 高 新校舎完成 なる

事業として校舎建設がとりあげられ、 しいつ 年、六十周年を迎えた。老朽化が 部省から設立認可され、 北海道旭川区旭川商業学校として文 旭川商業は、 創立五十周年記念の第一 大正十一 昭和五十七 年三月末に 激

あろうと思う。 旭商飛躍に向かっての羽ばたきでも 語る歴史のひとコマであり、 れる記念行事や事業はその発展を物 えての五十周年とその節毎に行なわ いは四十周年、 また半世紀を乗り越 明日の

期成会が設立された。このことが大

としてスタート。総額十五億円を投 きく実って五十四年度から継続事業

念してやまない。 今後ますます社会に役立つプロフェ い学校として発展してゆくことを祈 ッショナルを養成しながらすばらし 還暦という熟成期を迎えた旭商

旭

高新

校舎落成なる

行なわれた。 創立六十周年、 五十七年十月十二日、同校で盛大に

校舎落成記念式典が

入して鉄筋四階建てが完成し、昭和

謝に堪えない。 成果を収めることができたことは感 を上回るご協賛もいただき、多大な 友情溢れるご協力、とくに故郷を遠 立て予算三千五十万円に対して同窓 屋の建設をはじめ数々の事業計画を く離れた東京支部同窓生からの目標 この募金活動に対しては、各同窓の 会は一千万円の割当を引き受けた。 記念事業としては体育系クラブ部

> 大に挙行された。 十七年十月十七日、

*

*

*

十周年、校舎落成記念式典は昭和五 二十六日、移転を完了した。創立四

同校体育館で盛

た緑が丘地区内の新校舎に同年六月

校舎から住宅団地として開発され

を迎えた。この長い歴史と伝統に輝

業高校は昭和五十七年で四十周年 和十六年創立した北海道立旭

く旭工高は、市内一条二十四丁目の

久に保存されるであろう。 からの百

> 昭和五十八年三月十日、 連絡先は東京美装・桑本=電○三(三 人町二一二七) ら。会場は東京海洋会館(新宿区百 ▽旭川東高 (旭中) 東京支部総会= 午後六時 か

徒歩二分、電〇三(九四三)〇三二 場は茗溪会館(文京区大塚一―五― 八年二月十八日、午後六時から。 ▽旭川商業東京支部総会=昭和五 六三)二七二一 二二、地下鉄丸の内線茗荷谷駅より 会

隣り) 中原区小杉町――四〇三、小杉会館五日、会場はザ・エルシイ(川崎市 東京支部同窓会=昭和五十八年六月 =電〇三(九一八)一一三一 連絡先は巣鴨信用金庫人事部 ▽緑蔭会(北都高女、旭川市立高女 横

三三) 三五八三 連絡先は岩野加代子= 電 心四四 七 猛夫、小池栄寿、小坂佐久馬、小林栄

った。という豪華な景品に会場が盛り上が 百二十五点、実に二人に一点が当る 往復五割引券、往復無料券など総数 電子カーペット、東亜国内航空旭川 せんされ、新巻鮭、一億人の昭和史 行でミス旭川、準ミス旭川の手で抽 本年も行なわれ、松原常任幹事の進 大きな声で会場に響き渡った。 昨年好評の福引景品の抽せん会は

どをちょうだいして、予定を過ぎた 会を期し、 家族のことなど話は尽きず来年の再 かしい顔ぶれと郷土のこと、近況や 午後八時十五分散会した。 年ぶりに見る知人、友人など懐 お、会場には十月に実施した郷 坂東市長からのお土産な

第六回総会出 席者

宗万明、旭川市議会事務局大西一彰、三(来賓随行)旭川市市長公室次長 利雄、大心堂雷おこし社長村上康範 川観光協会副会長金森耕造、ミス旭 北海タイムス社東京支社長四十物昭 代表取締役大浦二郎、合同酒精羽島 東亜国内航空東京支店斉藤啓二、 川福本靖子、準ミス旭川鎌田秀子、 旭川商工会議所副会頭藤井諄一、 頭小檜山亨、旭川観光協会会長大西 会議長小柳勝人、旭川商工会議所会 国内航空東京支店長萩原庸嘉、十勝 功、北海道俱楽部会長太田剛、 〉来賓=旭川市長坂東徹、旭川市 旭 Ш

足立教子、荒品澄子、青木平三郎、 美恵子、井上克己、石川泰男、 谷峯、石上正博、板垣ツヤ、井川正、 チョ子、板井一瓏、五十嵐広三、板 浅井すみ、秋島勲郎、秋田泰、石本 ◇会員=安藤正人、縣二郎、青野茂 **开上克已、石川泰男、石出伊藤良夫、伊藤一男、磯** 板倉美代子、石川陵一、

窪田稔、熊木啓一、桑本平八、工藤

美佐子、北川一智、木原俊、黒川仁

山精二、中落英一、中本和子、仲山中井律子、中陳国光、中野虎雄、中良、中村虎男、中山豊昭、中川千代、

悦子、千葉トシ、土山久子、辻口文 口孝雄、谷口幸世、高橋規夫、千葉 高山和子、種田小三郎、竹原博、谷

智子、豊島邦夫、富田甚平、中村惟 子、土屋初代、土肥ちい子、土井磨 島孝子、谷本ヒサ、田辺勝、田村昌

竹原茂雄、高橋国二、高橋武夫、

ョ、田中義憲、田中国夫、武田陽子、 範芳、武田妙子、竹内薫、田村ツマ 世良保、田中吉夫、高橋芳子、武田 子、鈴木与之助、関口和子、関口緑

館本卓郎、平トシエ、竹田輝雄、高

義男、工藤ヤエ子、日下学、黒崎弘

された。 売会が行なわれ総売上げは八十六万子や虎豆、小豆など山海の珍味の即 市橋詰商店提供の鮭、すじ 土訪問旅行の写真が掲げら 五千円にのぼりこの収益は会に納入 数旭の川

合同酒精、十勝、旭川市議会小柳議ィスキー、サッポロビール、男山、 出席役員各位。 昭和実業、プロセス・アーキテクチ 興業、五建工業、大心堂雷おこし、 寄付金、賞品などの寄贈を受けた。 長、北海道俱楽部太田会長、旭川商 ヤ、橋詰商店、薬日本堂、ニッカウ 工会議所小檜山会頭、鴻池組、 東亜国内航空、 今回も総会のため左記の方々から 毎日新聞社、 太平

市民をはじめ、道北の人たち

陶芸品

だってありま

武)▽大雪窯(板東豊光)▽千尋窯 旭神窯(小木義則)▽溪雪窯(高橋

(千尋悠子) ▽風神窯(片山一)

 ∇

才 1

折登昭三、小野尚武、小沢慶子、尾、尾崎靖亮、折登建憲、折登園枝、 植野光彦、蝦名禮子、遠藤勝敬、大 大井俊雄、岡崎邦雄、金安勝雄、笠 崎哲、落合隆朋、大江誠、太田幸雄 枝、岡和田精、岡和田君子、大沢輝 大矢健、大村巌、大西浅市、奥原正 大室惣一郎、押味信子、岡本静子、 太田龍太郎、奥野寛一、大石武夫、 城栄子、大久保藤次郎、尾上一郎、 康、氏家一衛、上草義輝、梅原音二、 勢津子、石川惇、石川ツル、上田進 菊地文男、菊地拓、北邑芳雄、喜多 林四郎、神代秋夫、笠原貞夫、川田 鎌田政子、神部泰、加藤和俊、加藤 尚之、改田洋、角田園子、金谷音江、 木真知、金津良三、河端敏博、河村 加留部種子、加藤辰雄、川田正則、 修、亀井歓一、笠井博徳、笠井正司

> 旭川 美術 館

ニュース提供: 旭川市東京事務所

心で、大胆な形と繊細な色合いが特品は実生活に重点をおいたものが中に傑作を次々とうみだしている。作民ぐるみの陶芸教室も盛んで、熱心

徴である。

▽旭川窯(代表、押川清)▽愛宕窯

(秋田清陶) ▽桐窯(木元裕子)▽

とつひとつの作品に心をこめながら

それぞれ特色を生かした窯元が、

芸術の炎を燃やしている。また、

市

の講

あり、およそ一ヵ年の工期を経て堂 しほかに収蔵庫などの施設が

代彫刻の巨匠ブールデル展を催し、 々完成となった。開館記念として近 目の都市にふさわしい芸術と文化 所蔵品展を開催するなど、道内二番 続いて棟方志功展、難波田龍起展、 香りを誇る殿堂となっている。

数多くの陶工たちがいる。陶芸のま ち旭川では、北国の風土に根ざし、

究しながら陶の世界に意欲を燃やす

幸) ▽勇駒窯(佐藤忠雄) 北窓窯(吉田時彦)▽利幸

スタルヒン球場」

恵まれた良質の粘土。その土を研

内にオープンした。総工費は約九億 和五十七年七月二十三日、常磐公園 が熱望していた道立旭川美術館が昭

円、館内は三百二十平方メートルの

八百八十一平方メー

佐々木憲一、佐藤昭雄、坂上博二、

斉藤弘明、佐々木雄一、

々木喜三郎、笹谷享市、榊原潔、

笹

陸男、篠田礼子、塩谷キン、杉山俊 島津瞳、勝田正之、島田嘉明、清水

須藤正一、鈴木吉之、須藤智恵

正平、向井地博明、向井地和子、室酒多津男、三浦英次、三浦規、三浦 畠誠一、藤本澄、藤本繁、堀川和延 平野稚甫、日置卓也、日置光雄、福 幸子、八谷フミ、平岡敏男、 蓮本稔、坂東宗光、芳賀照雄、坂東 三、花輪元治、 田逸子、松浦常雄、前木誠、松原伸 堀江秀明、堀内貞子、松原利治、牧 船木トヨ、深沢幸子、福士忠幸、古 居浩一、二川武、二川ちゑ子、福田 昭、村上登茂子、村上茂利、山本文 谷文治、村上正、村井與吉、村本敏 洗正夫、三浦勤一、三浦美恵子、造 南栄二、三浦清史、宮下博夫、御手 憲、松原富子、宮城信幸、三好光吉、 一、福原博子、藤崎寅雄、福居秀一、 郎、八倉卷等、山本政二、吉田孔一、 子、矢野正康、安井吉典、八木祐四 、久宗庸子、久富勝次、久居勇雄 原公朗、萩野敏夫、

伴者二百六十八名、 名・敬称略 (以上来賓と随行十八名、 合計二百八十六 会員と同

西村政則、日光摂子、二木賢二、西 子、丹羽敏昭、西本武市、新国園枝

仁科禎、野口保元、野瀬ミツ

中村敏江、成田稚子、中田雪

米倉晴二、吉田敏明、渡

道北の都、 口 野球 が観られるぞ 旭川にまたひとつ名物

が誕生した。 は大きく前進した。 リーグ戦をぜひみたいとの市民の夢 ヴィクトル・スタルヒンの名にちな 十メートル、収容人員二万五千人と け、両翼九十五メートル、中堅百二 にあり、総工費十六億五千万円をか んで「スタルヒン球場」と命名した でき、五十九年度からは、セ・パ両 いう広さ。もちろん公式プロ野球も 市営硬式野球場がまもなく完成する 同球場は同市花咲町の近文公園内 旭川にゆかりの名投手

旭川東高)に進学。学業半ばにして ロ野球界を引退。一九五七年一月、 巨人軍の前身、東京野球倶楽部に入 し、日章小学校、旭川中学校(現、 シアに生まれ、ゆえあって旭川に定 スタルヒンは大正五年、当時の 算三百勝の偉業を達成し、同年プ 動車事故で四十歳の若さで死去し 一九五五年、プロ野球史上初の 競技者表彰の第

だが、アイヌ語のノレン、アイヌ

ビールは、サッポロ、ウィスキ

″ニッカ』、酒は ″男山』。男山

など、郷土色濃厚な店だ。

十人も入れば満員という小さな店

ズバリ゛旭川〟という居酒屋。

事 務 局 日誌

5

10

第四回幹事会

57 56 . 12 17 第三回幹事会 午後六時 テル・ニュージャパン)

副会長出席 議会新年交礼会、 1

: 12

北海道ふるさと会連絡協 第五回総会並懇親会(ホ 8 31 57 57 57 ●昭和五十六年度収支決算 57 7 5 6 16 28 19 第一回旭川会総会実行委 北海道ふるさと会連絡協 旭川市東京事務所永田 旅行会打合せ 藤常任幹事出席 議会総会吉田副会長・安 長来局、離任あいさつ

雑収入

寄付金

八三八、 一六六、

五〇〇円

000E

口進児、関口和子、大城栄子、直井 笹生澄子、大場裕子、杉本興作、

000E

一四八、

七〇一円

名簿売上代金

五十六年度総会会費

四六二、

000円

〈収入の部 昭和五十七年八月三十一日現在 四 门九、 七八四

と言っている

事務費

OOOE 一二五円 会議費

通信費

印刷費

〇六四、

八七〇円

八〇〇円

五〇、

四九〇円

四四〇円

総会会費

〈支出の部〉

二〇四(

ているとか。 る。既に旭川会の数人が愛用され あり、財布の中身を気にせず飲め と盃を酌み交す親しめる雰囲気が 小さな店だけにすぐ隣のオジン

別高卒、雪印パーラー等で腕をみ あり。マスター・小林光政氏は士 道新旭川版が読める。カラオケ

前五時まで営業。日祭日休。 トル程のところ。午後五時から午 沿って阿佐ヶ谷方向へ百五十メー 杉並区高円寺南三—六八

いのではなかろうか。国際賞受賞 オンリーという店も都内では珍し

「の ″男山 ″ の飛びっきりおいし

話 〇三 (三三八) ロータ 噴水 高円寺 四〇八八 新宿 阿佐ヶ

おいしいものを食べてもらいたい 店の経営方針を「故郷をPRして け」と口下手と称するマスターは ずし……いずれも現地直送の郷土

俺ができる話は郷土のことだ

んの切込み、数の子、いくら、い

酒の肴はにしん、ほっけ、にし

のも飲ませてくれる。

繰越金

支出計

雑費 手数料 交際費

場所は高円寺駅南口から高架に

適正に処理されているものと認めます。

以上の会計事項について監査の結果

常任幹事(会計担当) 東京旭川会会長

八木祐四郎 平岡 敏男 昭和五十七年八月三十一日

三、二〇四、三七九円

三五五、

〇八四円

八四九、

二九五円 九〇〇円 六七〇円

編集後記 昭和五十七年九月四日

思う。平日で入場者も少なく静かにゆ が、音に無神経な現代若者の態度にも 鑑賞のマナーを取り上げた朝日の社説 ルの高らかな靴音に悩まされた。絵画 を組んで入って来た娘さんのハイヒー として胸を張って自慢できるものだと 高い作品ばかり並んでいて、市の誇り 各部屋に展示されている作品も格調の オンコなどの埋木を使ったテーマ別の あるしょうしゃな建物で、ハルニレ、 良織工芸館は市を一望に見渡す高台に ☆旭川を久々に訪問した。神居の優佳 "後ろにも人がいる" が反響を呼んだ くり鑑賞していたところ、彼氏と手

> 郷 土訪問旅行参 加

> > 康、佐藤栄一、嶋田英雄、

合隆朋、阿部省吾、渡辺兼久、田 子、三沢文竜、西村明、大矢健、落 俊雄、田村昌士、三沢次雄、三沢和 間敏弘、矢野正康、中本和子、大井 三浦勤一、三浦美恵子、大江誠、本 夫、橋本直久、舟橋一夫、尾崎哲、 南栄二、南康子、堀川和延、今井秋 保藤次郎、大久保きみ子、滝本英子 野成子、永井英子、星野智子、大久 名古屋進、豊島経行、松田光昭、小 田敏明、吉田須摩子、武田陽子、武中本英二、斉藤武一、斉藤此水、吉 田弘、沢登博美、矢吹軍治、鈴木征 清水絹子、新山英子、折登昭三、 鯨井常義、小沢富作、内田伊三

る人もいた。総会の準備のための何回 氏のご苦労は大変で、受付だけに追わ 次回の会場選定は考えねばならぬだろ であった。ニュージャパンが例の事件 た。今年はとくに新入会員も多く盛大 ☆旭川会総会は年々出席者が増えて来 月二十五日、黄綬褒章を受賞されまし 山崎與吉氏は、酒造業界の振興発展に ☆元旭川市中央、青雲小学校長、 れてはならないと思う。 奉仕によって支えられていることを忘 かの会合も含め、これらの方の無償の れて会場の雰囲気に全く触れずに終わ う。それにしても毎回世話する役員諸 う。今年は少し窮屈な感じがしたので で使えなくなったが、総会の会場とし た。当会から祝電を打電致しました。 寄与した功績により昭和五十七年十 いただいている旭川市の男山酒造社長 ☆総会の都度、 ては十分なゆとりがあり良かったと思 銘酒 "男山"をご寄贈

> 腹ペコ。純益金は会費の方へまわすと の幹事はせっかくの馳走を横目にみて 回も人気は上々であったが、売り子役 りと並べた北海道特産品の即売会。 石本チョ子、竹原茂雄、安藤正人、雄、山村晃、山村橘子、小林光政、 ☆裏方さんの苦労話。総会会場でずら 岩崎千恵子、須藤正一、造酒多津雄 憲一、桑本平八、坂東宗光、松浦常 子、斉藤正明、斉藤登和子、佐々木 教子、田中国夫、田中利江、斉藤寿 野稔子、松沢桃代、伊藤英子、足立 笠原悦子、福原博子、石井ツル、星 峯、鎌田政子、篠田礼子、居関貞子、 谷音江、牧田逸子、笠木真知、細野 いづみ、中川智恵子、 板倉美代子、中田雪子、板谷 (順不同・敬称略) 並木治子、金

ょうだいする。流れるような達意の文 ☆今回も会長の平岡さんから原稿をち 救済策はないものかと本紙の編集会議 あって責任も大きい。この裏方さんの

ンチンの旅先で色紙を書いたのは作家 酒を傾け、せいろ (盛り)をいただく。 ☆不況の中に一九八二年の大いなる年 が久々に上京、神田の「やぶ」で日本 が去ろうとしている。北海道から東京 へ、さらに北海道へUターンした知人 「江戸も一生、蝦夷も一生」とアルゼ $\widehat{\mathbf{I}}$

田村昌士 伊藤一男 落合隆朋 大城栄子 佐藤正彦 関口和子 栄一

前を思い出せず失礼しております。ど れましたが、混雑に取りまぎれてお名 が前回の総会の時、平岡会長へ挨拶さ 市長を勤められた赤石忠助氏のご子息 |存知の方は事務局までご連絡 で話題になった。 の開高健であったか。 章。厚く御礼申し上げます。